

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291100085		
法人名	株式会社コスモスケアサービス		
事業所名	グループホームこすもす原		
所在地	静岡県沼津市原1528-1		
自己評価作成日	平成 28年03月07日	評価結果市町村受理日	平成 28年 5月 18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	平成 28年 3月 28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型の施設として、地域との関わりを大切にし、一人一人のご利用者様の思いや気持ちを理解しする様に心掛けていき、生き甲斐や役割を持てるように、自立支援に向けた環境づくりをしています。又、医療面についても常に連携医と密に連絡を取り合い、全体や個別での往診により、一人一人の健康面においても、適切に対応を取れるようにサポート体制を構築しています。決められた日課は無く、趣味や趣向に沿った生活を送って頂ける様に努めております。好天の日には近所に散歩に出掛けたり、車を使っての外出支援や外食支援も行っております。ご家族様からの問い合わせやご意見等を参考にし、ご利用者様やご家族様にも安心できる生活空間となるように、職員一同日々努力してまいります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは瓦屋根の日本家屋でとても落ち着いた雰囲気、館内外共に清潔感にあふれています。ホーム内でも職員と入居者様との関係も自然体で、家庭的な雰囲気が感じられ、日常生活の基本的な支援により、入居者様の表情や言動に落ち着きが見られます。いつでも、家族等の訪問ができる様な取り組みがされています。お便りにも、季節の行事に参加される入居者様の笑顔がとても印象的です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に根付いた施設作りを念頭に置き、地域社会に貢献する事業活動を行えるように理念を共有し実践する様に努力している。	重要事項の説明書に母体組織の理念を掲げ、職場には、組織グループの誓いを掲げていますが、事業所としての理念はまだ確立されておりません。	事業所理念について話し合う機会をもち母体組織の理念同様、自職場の理念をつくり上げるプロセスを体験しながら意識の共有と実践につながることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に行った時などに挨拶を交したり話をしている。 地域の行事には積極的に出向き参加をするようにしています。	自治会に加入しています。散歩や商店への買い物時に地域の人たちとあいさつをしたり、回覧板などで交流を図っております。地元中学生の体験学習の場として施設を提供するなど地域の方に理解されるように努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	お便りを活用し、日常の様子を広報活動していく中で、認知症に対しての情報を広めていく事により、少しでも理解を得る事の出来るよう努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の割合で会議を開催している。御家族や民生委員、地域包括等の様々な立場の方に参加して頂き、色々な目線からのご意見やご指摘を真摯に受け止め、サービスの向上に努めていくようにしている。	参加者の範囲や会議の概要について「運営推進会議規定」を別に定め開催しています。実際の会議では、参加者のうち地域密着の同業者代表の参加は増えており、現況報告が今まで同様行われております。	参加者から出された提案に対し、事業所内で検討したプロセスを、次の会議で報告することで、事業所のサービス向上のための役立つ提案が出る会議の開催を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書類の提出時や、介護保険の更新時などに少しでも沢山の意見交換が出来る様に努力している。	法律や、制度など解らないことや、困った事があれば相談し指示を受けています。地域包括が市担当者に代わって出席しています。民生委員などから聞いた地域で疑問についても不特定ですが、窓口の職員に相談しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スピーチロックも含め、職員同士の意見交換を通じ、全職員が共通の理解の元で、適切なケアが出来る様に取り組んでいる。	玄関は、日中施錠されていません。外出希望のある利用者に対しては、付き添って散歩する等個別に対応をしています。門柱のフックも簡単に開閉できるように改善されています。センサーマットの使用も最小限にし、使用しない方向に努力しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	気が付いたり気になった時点で、職員同士が常に声掛けを行うようにして、各自が取り組む事により虐待0に向けて努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用されているお客様がいらっしゃるが、まだまだ認識不足の面もあるので、少しずつでも学んでいく必要があると考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書類すべてにおいて、必ずご家族と一緒に読み合わせをしながら説明させて頂いている。都度、質問を受け付けながら、納得されたのを確認してから、次の項目に進むようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設への来訪時や運営推進会議等で、ご意見・ご要望を伺い、ひとつひとつ解決し、サービスの向上に努めている。	年4回ケアプランの更新時には、家族が訪問して、同意したプランを渡していますので、その際率直な意見を聴いています。訪問できない家族には、毎月発行している「お便り」で、近況や、他の家族から出た意見等についての対応結果等も記載しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニットの定例会議や日常の中でも意見があれば傾聴するようにし、安心して働ける環境づくりに努めている。	月1回開催のユニット定例会議および随時、ユニット長へ意見や提案ができるように話し合いを持っています。利用者の援助法に伴う意見に対しては、同日開催される、モニタリングの時にも意見を出してもらっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の個性を理解するように努め、気持ち良く働ける様に、そして前向きな気持ちを持って支援していける様な環境を提供できるように努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	様々な団体で開催されている研修や講習の情報があれば、各職員に情報を提供出来る様にし、少しでも向上心を持ち続けるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣施設の運営推進会議にお互いの代表者が参加するようにして頂き、情報交換を出来る場を設け、質の向上に取り組めるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	世間話の中から、ご本人の趣味趣向を理解する様に努力していき、安心して過ごしていける環境づくりが出来る様にしていこうと努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご契約時やお問い合わせ時等に、御家族から直接お伺いし、現状の事やこれからの事について等、常にご家族の思いを傾聴させて頂くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居に向けた話し合いの中で、直近のケアプラン等を参考にし、ご本人様とご家族様の意向をヒヤリングし、提案させて頂きながら必要としている支援方法を考える。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に話し合えるような関係性を構築していくため、本人様が考えていることや求めている事に対して、真摯に向き合えるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族が困って居る事や、考えている事をヒヤリングする機会を設ける様にし、その時に必要としていることに対して、話を傾聴するようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族やご友人が訪ねて来やすい環境を整え、いつでも気軽に会うことが出来る様に支援し、馴染みの場所にも機会を見付けて訪れる事が出来る様に支援していく。	家族が気軽にいつでも訪問できていました。申し出によって友人の訪問や家族と一緒に外出や外食及び墓参も可能です。家族写真などを居室に飾っている利用者もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアでの座席を固定することも無く、自由に過ごして頂き、幅広く交流が出来る様にしていこうと、又、ユニット間の行き来も自由にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お手紙や電話などを通じ、ご様子などをお伺いし、御家族からも連絡や問い合わせがあった場合には迅速に対応が取れるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランを軸にし、アセスメントを行うことにより、今何を必要とし何を求めているのかを判断するように努めている。	センター方式の活用はありませんが、入居に関する情報を家族に書いてもらい、その情報を支援に活用しています。職員間で申し送りノートによって情報を共有しています。日々の情報は経過記録に記入するようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	直近のケアプランやアセスメントシートを参考にし、ご家族やご本人様にもヒヤリングをおこないながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	直近のケアプランやアセスメントシートを参考にし、現在の暮らしの様子と見比べながら、現状の把握に努める様にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族に対してのモニタリングを行い、その後職員間でも行い、様々な意見の中から、何を必要としているのかを見極め、介護計画を作成している。	介護計画作成者が作成後、本人又は家族に説明し了承を得ています。職員からはモニタリング会議・ユニット会議で話し合い参考にしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は経過記録にまとめる事により、職員間で常に見直す事が出来る様になっており、その他の特変時についても業務日誌や医療連携に記入する事により、情報の共有を図れるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常にご本人様やご家族様の気持ちを傾聴し、思いを汲み取るようし、常に広い視野を持ち柔軟な対応が取れるように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人が役割を持てるような環境作りに心掛け、気持ちが前向きになれるように、心身が少しでも充実できるような環境を作れるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全体往診、個別往診で診察を行う。歯科の往診については希望者のみの対応。歯科や眼科の受診については家族の協力を得て、個人受診対応の方もいる。	歯科の協力医は変更がありましたが、以前のように希望者が受診していました。かかりつけ医への受診もできるように家族の協力や、申し出により職員が同行することもあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体等の異常時には直接報告、又は連携記録を使用して報告し指示を受ける。必要時にはすぐに受診し、往診時に診てもらう時もあり。土日や夜間時は連携医とのオンコール体制が確立されており、迅速な対応が取れるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の着替え等の準備の援助、長期的見舞いなどで病院と状況を確認し家族の協力が得られない時には施設で洗濯等を行う。退院時カンファレンスは必ず職員が参加し、退院時以降の指導を受ける。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご契約時に、前もって書面を通して直接話し合える場を設け、連携医との事もご家族の納得いくまで説明させて頂き、可能な限り出来る支援については、各関係者と協力し支援出来る様になっている。	契約時以外にも終末期及び状態の変化があった都度、家族と話し合いながら支援する取り組みをしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED等の救急対応の訓練を受け、対応マニュアルを制作し、常に目の届くところに設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行っており、訓練を通じて、避難経路や避難手段を話し合い、いざという時に適切な行動がとれるように心掛けている。	火災訓練はもちろん、津波に対しての避難経路も含め、検討する予定が組まれています。今年度新たに、隣接する商店の駐車場への避難通路を設置して、玄関以外の出口が確保されております。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様に対し、尊敬の念を持ちつつ、その方の立場に立って物事を考え、そして言葉を選び、よそよそしくなり過ぎない様な言葉を選択し、声掛けを行うようにしている。	個別対応がされていると感じました。職員の言葉かけは丁寧になされ、よく理解できるように努力されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員はなるべく話しかける様に心掛け、会話の中から思いや考えを汲み取るようにし、ご本人の希望する事を実現できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的なスケジュールは設定させて頂いているが、強制ではなくご本人様のペースに合わせるよう、声掛けしながら支援を行うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定出来る様に、ご本人様に確認しながら洋服等を選ぶようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皮むきや食器拭き等、一緒に出来る事はお手伝いをお願いするように声掛けしながら、食事の支度をするようにしている。	献立は職員が決めていますが、材料の下準備や、配膳、下膳の一部、おやつ作りなど、本人の希望を取り入れて無理のないように見守りながら支援しています。食器の色で食物が識別できるように配慮していました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分表を毎日付ける様にしており、各職員が目を通すようにし、水分摂取量を気にする様にしており、お茶だけではなく、色々な飲み物を用意し、飽きのこないように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立で行える方に対しても見守りを行うようにし、介助が必要な方には、職員が仕上げを介助するようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用しており、時間を見て声掛けや誘導を行うようにしている。必ずトイレに誘導し排泄をしていただけるように支援している。	トイレでの排泄を基本としています。尿や便の状態を表に記入しています。今後は排泄のパターンが把握できるように排泄表の有効活用をしていきたいです。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を活用する事により、排便の状態を確認出来るようしている。便秘状態となった時には、センナ茶を飲用して頂いたり、服薬による便秘予防にもつなげている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴については週に2~3回程度は入浴出来る様に支援している。入浴方法についても個々によって支援方法を変えており、気持ち良く入浴して頂けるように心掛けている。	週に2、3回入浴できるように、日中の活動を考慮しながら、体力消耗しないように工夫しています。湯温、洗身など本人の要望に合わせ、個別に行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室にて休みたいとおっしゃた時には、昼夜逆転にはならないような時間内で、居室で休んで頂くように支援している。使い慣れた家具等の持ちこみも可能な為、安心・安眠できる場所となっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を各自で確認出来る様に心掛けており、常に看護師に報告や相談を行いながら、服薬に向けた支援方法を選択している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれに楽しみにしていることが違うため、個々に楽しめる事だけではなく、皆で楽しめる事も考えながら、外出等の機会も設け、気分転換に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	好天の日には、近所を散歩する機会を設け、時間や距離も個々に合わせた支援を行っており、車を使っての外出も計画し、少し遠くまで足を延ばせるように支援している。	近隣の協力で外出支援はしていません。本人が希望すれば外出ができます。行事としての外出は行われていますが、日常的な外出の代わりに、天窓を開放し太陽光がテーブルに注ぐような工夫をしています。家族の協力で一緒に外出する利用者もいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様と買い物に行った時には、レジにて直接手渡しして頂いたりすることにより、ご自分で買い物をしているという役割も持って頂ける様にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙という事は少ないが、なるべくご家族や友人の方々に足を運んで頂きやすい雰囲気を提供することにより、少しでも多く交流出来るような機会を設けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	派手な飾り付けとかは行わず、柔らかい照明を使用する事により、落ち着いた雰囲気により、気持ちや穏やかに生活して頂けるように支援している。	玄関前のスペースに季節を感じる装飾がせれ、本物志向の飾りつけに好感が持てます。ソファースペース、食堂スペースなどが確保され、移動が可能であれば、自由に移動ができています。通風、採光に配慮して、天候に合わせてこまめに調整しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでの座席を固定していない為、話したい時に話したい相手との時間を作れるようにしており、独りになりたい時には居室に戻られたり、ソファで過ごして頂いたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具等を持ちこんで頂く事により、ご自宅に近い環境づくりが出来る事が出来、居心地よく、落ち着いて過ごす事が出来る様にしている。	本人が自宅で使用していた筆筒や仏壇、家族写真等は、居室に置いています。テレビの持ち込みも可能です。家族の協力で、本人が必要とするものを持ち込むことも可能です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行される際、障害物になるような物を置かない様に心掛けており、洗濯物や食器拭き等を手伝って頂く際には、テーブルまで職員が運び、座ったまま出来るような環境づくりを行っている。		